

ハニービーナス

登録番号：第9400号

登録年月日：平成13年10月18日

登録者：(独)農業・生物系特定産業技術研究機構

育成者：山根弘康 山田昌彦 栗原昭夫
永田賢嗣 角利昭 平林利郎
吉永勝一 角谷真奈美 小澤
俊治 佐藤明彦 平川信之

岩波 宏・中島育子

来歴：「紅瑞宝」と「オリンピア」の
交雑実生

育成地：広島県豊田郡安芸津町((独)
農業・生物系特定産業技術研
究機構果樹研究所ブドウ・カ
キ研究部)

特性

■栽培特性

4倍体品種であり樹勢は強いが、「巨峰」よりはやや弱い。「巨峰」と比べ発芽のそろいが良好である。「巨峰」は結果母枝の先端の2芽は強く伸長し、それより下部の芽は萌芽しにくく、また伸長しない傾向が強い。「ハニービーナス」は「巨峰」と比べると、先端の2芽以外の芽も萌芽・伸長しやすい。発芽期は「巨峰」より2日程度遅い。開花期は「巨峰」とほぼ同時期である。

「ハニービーナス」は「巨峰」と比べ花振るい性が小さく、結実が容易である。開花前の整房は開花が一部の花穂で始まった時期に、先端1cmを切り落としてその上部7～8cmを残すと良い。一般に開花時の新梢長が50cm以下の新梢では、結実は良好である。熟梢の色は褐色で登熟のしやすさは中程度である。長梢剪定では花芽の着生は良好で、1新梢当たり2花房をつける。花は両性花である。

■果実特性

収穫期は「巨峰」とほぼ同時期である。果皮の色は黄緑色である。果粒重は巨峰よりやや小さく、平均10～11gである。肉質は崩壊性と塊状の中間であり、「巨峰」よりやや硬く肉質がよい。糖度は「巨峰」より2度高く甘い品種であり、食味が優れる。特有の良い香りがありやや未熟な果粒はマスカット香に近いが、成熟が進むとフォクシー香に近くなる。裂果はほとんどみられない。果皮のむけやすさは「巨峰」よりわずかに劣る程度である。脱粒は「巨峰」よりややしにくい。日持ち性は「巨峰」と同程度で短い。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

「巨峰」と比べ晚腐病とうどんこ病にやや弱い。「ハニービーナス」は「巨峰」の種あり栽培に準じて栽培管理すればよい。果粒の熟度が進み過ぎると果粒の擦れ合った箇所に褐変が起りやすくなるので、適期に収穫しなければならない。

■地域適応性

東南北部から九州に至る広い範囲で栽培可能である。耐寒性は強く、東北地方北部においても一部地域に適応する。

(三谷宣仁)